

## 教育企画委員会 教育事業実施報告

教育企画委員長 九州大学 原 一広

## 第 76 回応用物理学会秋季学術講演会における教材展示ならびに応物資金 21 募金活動

第76回応用物理学会秋季学術講演会(名古屋国際会議場)開催中の9月13～15日の3日間、センチュリーホール2F ホワイエにおいて展示ブースを設け、北海道、北陸・信越、中国四国、九州の各支部、応用物理教育分科会(関東地区)がリフレッシュ理科教室で使用した教材の展示し教育企画委員会関係者で分担して説明を行った。今回は、青色LEDに関連したノーベル賞受賞を背景に、LEDを用いた教材が多く展示された。また、加速度センサーを用いた教材、風力発電などのエネルギーに関連した教材も展示された。東海支部は支部設立50周年を記念し、本ブースに隣接して大規模な展示を行った。会期中、リフレッシュ理科教室実行委員の経験のあるノーベル賞受賞者天野浩教授(名古屋大学)がブースに立ち寄られ声援された。更に、ブースに立ち寄られた会員の中の数名の方から、本事業を知らずこれまで個人で科学啓発活動を行っていたが、この活動に是非参加したいとの要望があり、関係委員へ紹介を行った。「応物資金21」への募金については、会場が広く人の動線から外れていたにも拘わらず 63口(63,000円)の寄付を戴いた。



## 第 4 回 FDリフレッシュ理科教室

第76回応用物理学会秋季学術講演会では、2014年、2013年、2012年の春季学術講演会に引き続き、第4回 FDリフレッシュ理科教室(9月16日 10:00～12:50、2S会場)を開催した。最初に、文部科学省「子ども霞が関見学デー」における出前授業について簡単な報告が行われた。その後、北海道、関東、東海、中国四国、九州地区におけるリフレッシュ理科教室の活動状況の報告、各報告に対する経験豊かな参加者からの問題点の指摘やアドバイスなど、教材開発・実施方法・運営資金について率直な意見交換が行われた。特に、新たな地域での本事業の立ち上げ・運営の方法、所管官庁との関係構築について多くの議論が行われ、参加者各々の実施経験に基づいたコメントがあった。また、現代科学技術に触れる機会が極端に少ない過疎地域や離島等に本事業を拡大する事についても議論が行われ、有志による先行実施例報告や意見交換が行われた。最後に、元人材育成委員長の早川泰弘教授より、外部資金調達の実現性についてのコメント、閉会の挨拶があった。



## 文部科学省「子ども霞が関見学デー」における出前授業

文部科学省開催「子ども霞が関見学デー」へ、土曜学習応援団（同省の要請により参加）として出前授業（平成27年7月30日、文部科学省15階会議室）を古田教育企画位委員が中心となり行った。授業題目は「富士山頂ってどういうところ？」であり、富士山頂（実験ビデオ）と教室（生徒が体験）との模型ヘリコプターの上昇力の違いから、現代科学技術における大気圧や大気密度の役割を生徒に実感させた。

